

常にラッキーなことに捉えたいと思っています。大きすぎて自分がしっかりしなければ、何も覚えないうまなんとなく日常業務で流されてしまう危険がある一方で、欲張ればいろいろなことを吸収できる環境です。勉強熱心な先輩職員に恵まれ、その姿を見ているだけでも刺激になりますし、同じ掛の職員も仕事に手を抜かない人ばかりです。今はまだ支えられるばかりですが、いずれは利用者からも図書館員からも信

頼られるようになりたいです。

デパートも本屋も利用者次第で潰れる昨今ですが、図書館も同じことだと思います。図書館も人間相手のサービス業だということは、公共図書館で身に染み込んだことですが、大学図書館でもそれだけは忘れずに仕事をしたいと考えています。

(いいだ ともこ)

医学図書館が入退館機と閲覧システムを9月より導入

医学図書館では、9月3日より入退館機と閲覧システムを導入し、稼働しています。

1985年以降の外国雑誌の貸出手続きについては、機械で読みとる貸出となり利用者に好評です。京都大学職員証、学生証、医学図書館利用証または附属図書館が発行している図書館利用証のいずれかをご持参ください。

また、医学図書館利用規則も改正され、到着一ヶ月以内の新着雑誌を除く雑誌はすべて24時間以内の貸出となりましたのでご注意願うとともに、年末は12月27日まで、年始は1月5日より開館いたしますのでご利用ください。

映画と音楽を図書館で楽しみませんか

来年2月頃より、附属図書館AVホールにて、映画・ビデオの上映会と音楽鑑賞会を開催します。

図書・雑誌以外にも附属図書館では多くの資料を持っています。その中から古典的名作の映画を上映します。また音楽では故片田清氏より多くの蔵書（現在附属図書館二階閲覧室に配架）と御一緒に寄贈いただいたCDをかけて聞いていただこうと計画しています。勉学・読書に疲れた心と体を癒やしませんか。

